

1 学年・教科 第1学年 商業・簿記

2 単元名 「第2章 資産・負債・資本と貸借対照表」

3 指導計画

| 時間 | ねらい | 学習活動 | 評価 | | | |
|---------|--|---|----|---|---|---------------------|
| | | | 知 | 思 | 態 | 評価方法 |
| 1 | <p>1. 簿記の5要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簿記の記録対象となる項目が資産・負債・資本・収益・費用の5つのグループに分類・整理することを理解させる。 <p>2. 資産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営活動を行うための財貨や債権を理解させる。 <p>3. 負債</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営活動のために、将来一定金額を支払わなければならない債務を理解させる。 <p>4. 資本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資産から負債を差し引いた場合、企業に残る資産が資本であることを理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・初めての用語が多いため集中して説明を聞き、不安な場合は、教員やグループワークの時間で確認する。 ・グループワークで売掛金・貸付金・買掛金・借入金・資本金といった日常生活において馴染みのない用語を正しい要素に分ける。 | ○ | ○ | | ・グループワークによる行動観察 |
| ② 本時 | <p>5. 貸借対照表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定時点の財政状態を明らかにするために貸借対照表を作成することを理解させる。 <p>6. 資産・負債・資本の増減と純損益の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営活動によって資産・負債・資本が絶えず変化することを理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・正しく貸借対照表を作成できたかグループワークで見せ合い、不足している部分を補う。 ・実務においてはまとめて処理せずに、取引ごとに処理することを、事例を通じて理解する。 | ○ | ○ | ○ | ・問題集 ・リフレクションシート |

4 期待できる基礎的・汎用的能力

- (1) 課題対応能力（企業経営や簿記会計について興味関心を持ち、課題を発見）【課】
- (2) 人間関係形成・社会形成能力（プレゼンテーション能力、他者の意見の理解）【人】

5 本時の目標

- (1) 簿記の基礎概念として資産・負債・資本が何かを思考し、それぞれの区分を適切に判断し、表現できるようにする。
(知識及び技能)(思考力、判断力、表現力等)
- (2) 資産・負債・資本や貸借対照表について関心を示し、把握できるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

6 本時の指導 (2 / 2時)

| | 時配 | 学習活動 | ○指導上の留意点 ★キャリア教育の視点 | 評価 | | | |
|-----|----|--|--|----|---|---|--|
| | | | | 知 | 思 | 態 | 評価方法 |
| 導入 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> 挨拶 前時の復習 本時の学習内容を確認 | <ul style="list-style-type: none"> ○前時に学習した資産・負債・資本について、身近な例を挙げさせる。 ○本時の目標を伝え、学習の見通しが持てるようにする。 | | | | |
| 展開 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> 貸借対照表の作成を教科書の参考例を理解し、問題集の演習問題を解く。 | <ul style="list-style-type: none"> ○5分間の時間を設けて問題を解かせている間に、記入方法を理解していない生徒がいなか機間指導を適宜行う。 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・問題集(提出内容) |
| | 10 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒が経営者の立場と仮定し、良い貸借対照表を想像して作成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○各自が作成した貸借対照表をグループワークにて見せ合い、間違っている箇所を生徒同士で教え合わせる。 | | | | |
| | 15 | <ul style="list-style-type: none"> 各自が作成した貸借対照表をグループで発表し合い、より優れた内容を全体で発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ★企業経営について興味関心を持ち、会計上の責任を意識しながら作成させる。【課】 ★経営者としての立ち振る舞いや、話し方、言葉選びなど、適切な方法でプレゼンテーションを行うように伝える。【人】 | | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・全体発表による行動観察 |
| | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・NHK高校講座「簿記」の動画視聴により、本来取引毎に貸借対照表の金額が増減することを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○演習問題の貸借対照表では取引ごとの作成は行っていないため、生徒が間違った理解をしないように留意する。 | | | | |
| まとめ | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容の確認 ・リフレクションシート作成 ・次時の学習内容の予告 ・挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動をリフレクションシートにまとめさせる。 ○次時は収益・費用の学習すること予告する。 | | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションシート |

【板書計画】

| | | |
|-----------------------|----|--------------------------------|
| ○/○ 貸借対照表 (B/S) | | ◎貸借対照表を作成してみよう！ |
| 目標 貸借対照表を理解し、自分で作成する。 | | <作成時のルール> |
| B/S ◎作成時のポイント | | ①合計は1,000,000円にすること |
| 資産 | 負債 | ②使用する項目(現金など)は教科書に記載されているものとする |
| | 資本 | ③どのような会社を運営しているか考えて金額を振り分ける |
| | | 資産=負債+資本 (左と右の合計が一致) |
| | | 期末資本-期首資本 =当期純利益 |

★小・中・高接続のポイント

「課題対応能力」について

(小) 物や金銭の大切さと計画的な使い方について考える。

小学校学習指導要領 第8節 家庭 1 C (1) ア (ア)

(中) 計画的な金銭管理の必要性について考える。

中学校学習指導要領 第8節 技術・家庭 第2 (家庭分野)

2 C (1) ア (ア)

(高) 企業会計に関する法規と基準の改正などに随時対応し、実務に即した例題を取り入れた学習をする。

高等学校学習指導要領 第11 簿記 3 (1) ア

「人間関係形成・社会形成能力」について

(小) ICT機器を活用し、実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるようにする。

小学校学習指導要領 第8節 家庭 第3 2 (2)

(中) ICT機器を活用し、実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるようにする。

中学校学習指導要領 第8節 技術・家庭 第3 2 (2)

(高) 財務諸表の作成の方法について考察や討論を行う学習活動を通して、適正な取引の記録と財務諸表の作成ができるようにする。

高等学校学習指導要領 第11 簿記 3 (1) ア